

昭和29年3月31日に誕生した成田市は、今年、令和6年に市制施行70周年を迎えます。今回から、本市が歩んできた70年の歴史を、写真や資料で振り返る「シリーズ成田市70年」(全10回)を掲載します。

昭和28年～30年の出来事

昭和28年	10月	町村合併促進法が施行され、全国的に町村合併が推進される
昭和29年	3月	1町6村が合併して成田市が誕生
	5月	成田市で市章を制定
	7月	成田市制施行祝賀行事を開催
昭和30年	2月	1町2村が合併して下総町が誕生
	4月	2村が合併して大栄町が誕生

祝賀行事が盛大に

成田市では、成田祇園祭に合わせ、昭和29年7月6日～10日に、市制施行祝賀行事が開催されました。

成田小学校の講堂で開催された市制施行祝賀式を皮切りに、6日夜には、国鉄(現JR)成田駅周辺で提灯行列、8日は国鉄成田駅前で、当時の人気歌手・小唄勝太郎さんの歌謡ショー、10日は花火大会など、数多くの催しが盛大に行われました。

当時の広報紙は、4,000人を超す市民が市内を練り歩いた、提灯行列の光の様子を「火の海と化した提灯行列」(「成田市政だより(昭和29年8月10日号)」)と伝えています。



成田小学校講堂で行われた市制施行祝賀式



市内を練り歩く提灯行列



①市制施行当初の市庁舎は旧成田町役場を使用②昭和20年代ごろの伊能歌舞伎③昭和31年の滑河駅前十字路④昭和28年の成田祇園祭

昭和29年になると、神崎地区から5町村合併の提案が起こり協議が重ねられましたが、実現には至りませんでした。

その後、元の3町村で対等合併を進めることになり、昭和30年2月11日に下総町が誕生。当時の人口は8,109人で、下総町という町名は一般公募で集まったものから選ばれました。

大栄町の誕生

昭和28年の町村合併促進法の施行を受け、大須賀村・昭栄村で合併の計画が進められました。

それぞれの地区から出された意見を基に調整を重ね、合併に向けて協議が進められていき、昭和30年3月23日、両村で合併案を議決。昭和30年4月15日に大栄町が誕生しました。

当時の人口は1万1,954人。新町の名称は大須賀村の「大」と昭栄村の「栄」を併せて大栄町となりました。

成田市・下総町・大栄町の誕生



昭和の大合併で市町村数が3分の1に

戦後、新制中学校の設置や市町村消防・自治体警察の創設の事務なども市町村の事務とされましたが、規模の小さい町村は、行財政上、そのような事務を担うことが難しいところもありました。そこで、昭和28年に町村合併促進法が施行され、新制中学校を効率的に設置管理できる規模として、人口8,000人を標準に、町村合併が進められていきました。

その結果、昭和36年の全国の市町村数は、昭和28年のおよそ3分の1となりました。

成田市の誕生

千葉県では、町村合併促進法が施行される以前から町村合併に向けて動き出していました。

昭和27年には、成田町・公津村・八生村・中郷村・久

住村・豊住村・遠山村・富里村(現富里市)・安食町(現栄町)の2町7村で合併を進めるのが最適だと考えられていましたが、富里村は人口や財政規模から合併の必要はないと判断され、安食町は住民の強い反対により、この合併案は日の目を見るに至りませんでした。

そのような中でも、当時の各町村が抱える財政危機を克服する有効な手段と考えられていた町村合併の機運は衰えることなく、昭和29年1月14日には、富里村・安食町を除いた1町6村で合併協議会が設置されました。

その後「対等合併とする」「新市名を成田市とする」などを盛り込んだ合併基本要領が作成され、昭和29年3月31日、人口4万4,724人の成田市が誕生しました。

下総町の誕生

昭和28年、町村合併促進法が施行されると、滑河町・高岡村・小御門村の1町2村での合併が計画されました。